

**令和7年度  
「ふるさと学習」  
実践事例集**

**令和8年3月  
廿日市市教育委員会**

令和7年度 「ふるさと学習」 実践事例集

目 次

| 〈学校名等〉 |         | 学年  | 〈单元名〉                                  | 〈ページ〉 |
|--------|---------|-----|--|-------|
| 1      | 廿日市小学校  | 3   | 「廿日市 けん玉」～みんなでけん玉文化を広めよう～              | 1     |
| 2      | 平良小学校   | 5   | 平和な世界をつくるために私たちにできることー環境・福祉・国際交流ー      | 2     |
| 3      | 原小学校    | 3・4 | 原のくらしから学ぼう                             | 3     |
| 4      | 宮内小学校   | 3   | 宮内ってすてき！                               | 5     |
| 5      | 地御前小学校  | 6   | 地御前のよさを発信しよう                           | 6     |
| 6      | 佐方小学校   | 4   | 安心・安全なまちづくり～佐方っ子防災大作戦～                 | 7     |
| 7      | 阿品台東小学校 | 3   | 「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」                | 8     |
| 8      | 阿品台西小学校 | 3   | 阿品のすてき                                 | 9     |
| 9      | 金剛寺小学校  | 4   | 串戸の福祉～串戸のまちづくりをしよう！～                   | 10    |
| 10     | 宮園小学校   | 3   | みんなのピオトープ                              | 11    |
| 11     | 四季が丘小学校 | 5   | Let's 防災～土砂災害から地域を守れ～                  | 12    |
| 12     | 友和小学校   | 3   | 発見！ふるさとのいいところ                          | 13    |
| 13     | 津田小学校   | 6   | 「サンフラワープロジェクト」～「津田のひまわり畑」をもりあげよう～      | 14    |
| 14     | 吉和小学校   | 3～6 | 吉和の宝を見つけ、発信しよう                         | 15    |
| 15     | 大野東小学校  | 1   | なつがやってきた・いきものとなかよし たのしいあきいっぱい          | 16    |
|        |         | 2   | みんなでつかう まちのしせつ                         | 17    |
|        |         | 3   | 大野のすてきな人を見つけよう                         | 18    |
|        |         | 4   | 災害を調べよう・災害に備えよう                        | 19    |
|        |         | 5   | 「廿日市の『味力』 伝え隊」                         | 20    |
|        |         | 6   | 「大野の今を見直そう！」                           | 21    |
| 16     | 大野西小学校  | 4   | 「大野のステキを見つけよう～大野の達人から学ぼう～」             | 22    |
| 17     | 宮島小学校   | 4   | 「誓真さんを多くの人につたえよう」                      | 23    |
| 18     | 廿日市中学校  | 1   | 世界遺産のあると宮島から学ぶ                         | 24    |
| 19     | 七尾中学校   | 3   | 「防災学習チャレンジ」～災害を乗り越える街づくり・人づくり～         | 25    |
| 20     | 阿品台中学校  | 1   | 「ふるさと学習Ⅰ(阿品・阿品台) 防災学習」「ふるさと学習Ⅱ(宮島)」    | 26    |
| 21     | 野坂中学校   | 1   | ～宮島の魅力を発見し、伝えられるようになろう～                | 27    |
| 22     | 四季が丘中学校 | 1   | 観光客が求める廿日市市の魅力                         | 28    |
| 23     | 佐伯中学校   | 1   | 津田商店街活性化プロジェクト                         | 29    |
| 24     | 吉和中学校   | 1   | 吉和の未来を考えるⅠ～吉和の匠を見つけ、広めよう～              | 30    |
| 25     | 大野中学校   | 3   | 被爆80年を迎えたヒロシマと大野～持続可能な平和な町をめざして～       | 31    |
| 26     | 大野東中学校  | 2   | 廿日市と京都の比較学習                            | 32    |
| 27     | 宮島中学校   | 2   | Unit4 What is important in a homestay? | 33    |

単元名

「廿日市 けん玉」  
～みんなでけん玉文化を広めよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎けん玉は、なぜ国や言葉の壁をこえて広がることができるのか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●けん玉の魅力は、どうすれば多くの人に伝わるのだろうか？

【単元の目標】  
けん玉の魅力や価値を調べ、だれに・どのように伝えれば広まるのかを考え、自分たちなりの方法で発信することができる。

【連携諸機関・人物】

・FM はつかいち  
倉本 良一 さん

・日本けん玉協会  
砂原 宏幸 さん

★学習活動のアピールポイント★



＜大会の講話＞



＜校内の大会の様子＞



- ・ゲストティーチャーの講話の中から、「けん玉は世界的には人気だが、廿日市市内に住む人の参加率が低い。」という課題を知り、「自分たちがけん玉の文化を広めたい。」と興味を高め、活動のきっかけづくりに繋がった。
- ・ICT 機器を活用してアンケートを作成し、校内の児童がけん玉についてどのくらい知っているか調べる取組を行った。
- ・けん玉ワールドカップについて宣伝する活動に取り組んだが、大会後の本校児童を対象に実施したアンケート結果から、実際に参加した児童がほとんどいなかったという事実を知り、「まずは廿小のみんなに、けん玉に興味をもってもらいたい。」と考え、「廿小けん玉ワールドカップ」を開く活動に発展させた。
- ・「大会の運営」・「技・認定証」・「宣伝」・「メダル・土台作り」の4つのグループに分けて、チームの中で役割分担をしながら、大会までの準備・発信を行った。
- ・学校で行った大会では、自分の役割を果たしながら大会がスムーズに進むように時間配分を工夫して進めることができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 校内アンケートを通して、けん玉に対する人々の考えや知識を数値で捉え、その結果から課題や広め方を考える力を身に付けた。
- 校内で大会を開くために、どのような取組が必要かを児童だけで考え、役割分担をしながら計画し、実行することができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇大会を盛り上げるためにポスターや放送など複数の方法を使って、分かりやすく伝える工夫をすることができた。
- ◇けん玉大会をもっとたくさんの人に知ってもらうために、自分にできることは何かを考え、やってみたいと感じた。

単元名

平和な世界をつくるために  
私たちにできること  
—環境・福祉・国際交流—

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎平和な世界をつくるために自分たちにできることは何か？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●世の中で起こっていることは何か？どのようなことができるのか？

【単元の目標】

自分たちが住んでいる廿日市市の環境・福祉・国際交流の現状について知ることから、平和な世界をつくるために自分たちにできることについて考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市役所生活環境部ゼロカーボン推進課
- ・ENEOS 株式会社
- ・廿日市市社会福祉協議会
- ・広島県介護福祉会
- ・廿日市外国人相談センター

★学習活動のアピールポイント★



＜環境未来のエネルギー＞ ＜福祉高齢者体験＞＜福祉車いす体験＞ ＜国際交流在住外国人＞

- ・「平和な世界をつくるために自分たちにできることは何か？」について、児童一人一人が、「環境・福祉・国際交流」の中からテーマを設定し、学年全体で3つのグループに分かれ、探究的な学習に取り組んだ。
- ・環境グループでは、ENEOS 株式会社の方から、現在の環境問題や未来の新しいエネルギーとして植物による発電の具体について紹介していただいた。
- ・福祉グループでは、車いす体験や高齢者の聞こえ・体感等、特殊な器具を着用しての歩行体験を通して、高齢者の実態や身体の障害について理解を深めた。
- ・国際交流では、廿日市市外国人相談センターの方から、廿日市市の在住外国人の現状や活動内容に付いて紹介していただいた。
- ・廿日市市における「環境・福祉・国際交流」の現状や児童自らが情報収集した内容について、学年全体でテーマ別グループに分かれ、情報収集を行いながら学びを深めることができた。その後、参観日を活用し、児童・保護者へのプレゼンテーションを通して、自らの学びの発信を行った。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 自分が暮らしている廿日市市の「環境・福祉・国際交流」について知ること、各教科で学習する内容について身近な問題としてとらえることができるようになった。
- エネルギーの実際や福祉体験活動を通して、未来の生活や未来の自分について考えることができた。
- 自らの学びを協働的に交流し、保護者への発信を行うことで、深めることができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇植物によるエネルギーで、電気がつくことやそれを利用していることに驚いた。
- ◇高齢者体験をしてみて、見えないことや聞こえないこと、階段を上ることが大変なことがよく分かった。
- ◇廿日市市の外国人の方のことやいろいろな手立てが行われていることが分かった。
- ◇自分たちにできることをこれからもしていきたいと思った。

単元名

## 原のくらしから学ぼう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎ふるさと原のよさとは、何だろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●ふるさと原のよさを発信するには、どうしたらよいだろうか？

### 【単元の目標】

お米について、観察したり調べたりする活動を通して、自ら課題を発見し、追求する。また、稲刈りなどの体験活動を通して、地域のお米を育てている人の苦労や願いを知り、地域に愛着を持つとともに、地域のために自分達ができることを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

- ・地域の方々  
(田中 修二様 他)
- ・ハラっぱマルシェ実行委員会  
(玉田 梨乃様 他)
- ・保護者の方々

### 学習活動のアピールポイント

原小学校では、伝統的に地域の方から田と畑を貸していただいて、1～4年生が米作り、1・2年生がサツマイモ栽培を行っている。今回、3・4年生は『原のくらしから学ぼう』の単元で、地域のイベント「ハラっぱマルシェ」において、収穫した米を販売する活動に取り組んだ。計画については児童に委ね、児童が主体的に販売に必要な情報やものについて調べ、問題点の解決に向けて具体的な計画を立てられるようにした。特に4年生は、昨年出店した経験を活かし、計画の改善や3年生へのアドバイス等が主体的に行える、異学年交流のよさが生かせる活動となるよう工夫した。

#### <稲作体験 1～4年>



#### 活動風景



- ・計画を立てる段階から児童に委ね、児童が主体的に興味・関心のある事柄について協力して調べ、体験し、発信できる学習形態をとった。
- ・総合的な学習の時間の活動を中心に、国語科の作文や話し方、社会科のスーパーマーケット見学、算数科の計量や、理科の植物についての学習、図画工作科の箱の組み合わせによる工作等の既習事項を生かせるように横断的にカリキュラムを工夫し、学習をスパイラルに深めていけるようにした。
- ・学級全体で協同的に活動できる場面を設定し、力を合わせて成し遂げていく喜びを得られるようにした。
- ・地域学校協働本部を中心として、地域の方々の協力を仰ぎ、児童がやりたいこと、体験したいことが最大限実践できるようにした。
- ・感謝の気持ちをもって活動できるよう、地域の方々の協力があつて活動ができていることや、道徳で学んだことを身近に生かせることを助言した。

| 児童生徒の成長した姿 (○)   | 児童生徒による振り返り (◇)  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと原の自然を生かしたもち米の素晴らしさと、稲作を守り受け継いでこられた方々の努力について改めて感じ取り、児童が地域に対する誇りや愛着を得ることができた。</li> <li>○米の価格をスーパーマーケットで調べてきたり、米作りでかかった経費を考えたりと、商品の価格がどのようにして決まっているのかについて、学びを深めることができた。</li> <li>○出店に向けて話し合い、準備をしていく活動を通して、意見の相違から合意に至ったり、得意な分野を生かしてみんなで補い合ったりする、協働的な活動を行うことができた。</li> <li>○自分たちの主体的な活動を買って成功した体験を通じて、児童が自分たちで考えて行動していくことに自信をもつことができた。</li> <li>○販売を通して、大きな声で客を呼び込んだり、自分で考えて作業効率を改善したりと、成長してゆく姿が見られた。</li> <li>○4年生は去年の経験を生かして3年生をリードし、3年生は活動の中で主体的に活動する姿を学ぶという、異学年交流のよさを生かした活動ができた。</li> <li>○地域の方々に支援していただき、Instagram発信など新しい地域連携の形を作ることができた。</li> <li>○お世話になった方々に、米販売の収益からお返しをしようとするなど、感謝の気持ちを表現できた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇米作りは大変だったけど、きれいな白いお米になったのを見たとき達成感を感じた。</li> <li>◇米作りにはたくさんの時間と作業が必要だとわかった。昔の人は手作業で脱穀などを行っていたからすごいなと思った。</li> <li>◇お米を計量したときに算数の「重さ」の学習がすぐに役に立って、算数の必要性を実感した。</li> <li>◇ポン菓子を作ってお客さんに配ったとき、たくさんの方が笑顔になっていて嬉しかった。原のよさを知ってもらえたのではないかな。</li> <li>◇店名や米の名前を自分たちで話し合っ決めて決めたことで、自分たちのオリジナル感があり、がんばって売りたいというやる気が出た。</li> <li>◇FMはつかいちの番組に出演したり、Instagramに掲載したりして自分たちの声をたくさんの人に聞いてもらえたのが嬉しかった。もっといろんな人に原のよさを知ってもらいたい。</li> <li>◇米の販売はたくさん声を出して大変だったけど、売り切ることができて嬉しかった。</li> <li>◇自分たちが育てた米を、みんなと楽しく料理して食べることができて嬉しかった。</li> </ul> |

単元名

宮内ってすてき！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎町はどのように存続しているのか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●宮内はどうしてすてきな町なんだろう

【単元の目標】  
自分たちの住む町のよさについて調べることを通して、町が様々な人に支えられていることや、地域の人々の思いや願いに気付く。

【連携諸機関・人物】  
・廿日市市役所  
(ゼロカーボン課)  
・宮内コミュニティ  
・地域コーディネーター

★学習活動のアピールポイント★



<地域人材・財産の活用>



<水辺教室>



<ICT の活用>

- ・自分たちで興味をもったものを選んで調べることで意欲をもたせることができた。
- ・宮内コミュニティ、地域コーディネーターの方など地域の人材を活用し、話を聞いたり、地域に残る古い建物も活用したりして調べ学習を行った。
- ・国語科で学習した情報の整理の仕方や、社会科で学習したスーパーの学習なども活用しながら進めた。
- ・ICT を活用して調べたり、スライド作成を行ったりした。

児童生徒の成長した姿 (○)

- ICT を活用するスキルが上がった。
- グループ学習で友達と情報を共有し、必要な情報を話し合って取捨選択したり、役割分担をしたりするなど、コミュニケーション能力が上がった。
- 地域に対する興味関心が深まり、地域のイベントに参加しようとする児童が増えた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇町のために、地域の人がいっしょに工夫をしていることがわかった。
- ◇地域の人たちが町を大切にしてきたから古い建物や自然が残っていることがわかった。
- ◇地域の人たちはみんなの心に故郷の思い出が残り、町を出て行った人にも、また帰ってきてほしいと思っていることがわかった。
- ◇自分たちも宮内の町を大切にしていきたい。

単元名

## 地御前のよさを発信しよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎ 我がふるさと“地御前”の魅力とは？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

● 地御前の宝(史跡)を守り継承していくために、自分たちができることは何だろう。

【単元の目標】

地御前の史跡について理解を深め、ふるさと“地御前”のよさに気づき、ふるさとに誇りと愛着をもつ。

【連携諸機関・人物】

- ・地御前市民センター
- ・地御前郷土文化保存会
- ・地御前地区自治会文化事業部
- ・地御前シニアクラブ連合会
- ・地御前地区人権啓発推進協議会

### ★学習活動のアピールポイント★



< 事前学習 >

・郷土文化保存会の方から地御前の史跡について学び、さらに関心をもったことを調べまとめました。



< 史跡巡りツアー当日 >

・“地御前史跡巡りツアー”のガイド役を務め、紙芝居やペープサートを駆使して説明しました。



< 事後発信 >

・作成したパンフレットと当日の様子を地御前市民センターロビーに掲示し、地域の方にも発信しました。

#### 児童の成長した姿 (○)

- 我が町“地御前”の史跡に興味・関心を持ち、意欲的に調べた。
- 地御前の史跡を誇りに思い、自分たちが守り伝えていきたい、という思いをもつようになった。
- 地御前の史跡をたくさんの人に知らせたいという意識が高まり、発信の仕方を友だちと協働して考え、ガイド役に挑戦した。
- 我が町“地御前”により愛着をもつようになった。

#### 児童による振り返り (◇)

- ◇ 伝統ある地域に住んでいることを誇りに感じるようになった。
- ◇ 自分たちのグループが担当した史跡以外にもっと知りたくなった。
- ◇ 一般のツアー参加者に、分かりやすく伝えるために、伝え方を工夫したり、何度も練習をしたりして、しっかりと伝えることができた。
- ◇ これからは、地御前の史跡を自分たちも守っていききたい。

単元名

安心・安全なまちづくり  
～佐方っ子防災大作戦～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎佐方っ子が自分で命を守るために、できることは何だろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●命を守るための行動とは？

【単元の目標】  
出前授業や自ら設定したテーマへの探究活動や他学年への発信を通して、地域や家庭における防災への理解を深める。また、防災意識を高め、自らの命を守るために、自分にできることから主体的に実践しようとする意欲を育てる。

【連携諸機関・人物】  
・広島県危機管理監  
・広島県みんなで減災推進課

★学習活動のアピールポイント★



<防災出前講座>



<防災発表の呼びかけ>



<他学年への防災発表>

- ・広島県危機管理監、広島県みんなで減災推進課の方に防災出前講座をしていただき、災害シュミレーションを行うことで、災害時の想定から、非常持ち出し袋やハザードマップの重要性を実感し、自分事として主体的に活動に取り組んだ。
- ・他学年に発表する場を設定することで、目的意識や相手意識をもって学習に取り組んだ。
- ・学校運営協議会の場でも発表をし、学習の成果を地域の方へ伝えることができた。
- ・社会科「風水害からくらしを守る」と関連して、自助・公助・共助についての学習も深めた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 「自然災害は、いつか必ずやってくる。いつ来るか分からないから、恐ろしい。」と、災害の恐ろしさを知り、防災意識が高まった。
- 「災害時、身を守るためにはどうすればよいか」を念頭に、自分の決めたテーマについて探究する姿が見られた。
- 他学年への発表(防災啓発)に向けて、聞き手に分かりやすく伝えるように、スライドや説明の仕方を工夫して行った。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇これまで、自然災害の恐ろしさをあまり感じていなかったが、地震や大雨、津波について調べていくことで、その災害の恐ろしさを知り、備えの大切さが分かった。非常持ち出し袋や避難所の確認を家族と行おうと思った。
- ◇他学年に防災発表をすることで、佐方っ子のみんなが自分の身を自分で守れるようになるきっかけになったと思う。防災について調べて、伝えることができて良かった。

単元名

## 「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎阿品台のすてきを伝えるには、どうすれば良いだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●わたしたちのまち阿品台には、どんなすてきがあるのだろうか？

【単元の目標】  
自分たちが住んでいる町について知り、すてきなところを見つけ、周りの人に広めていくことを通して、地域についての関心を高め、ふるさとを大切にしていきたいという態度を育てる。

【連携諸機関・人物】  
・阿品の森サポータークラブ  
・阿東っ子応援隊  
・阿品モール

### 活動の概要

これまで生活科の学習のまち探検や、社会科で地域について調べる学習を通して、自分たちが生まれ育った阿品台で知らないことや行ったことがない公園などがたくさんあることを発見した。そこで『阿品台のすてき見つけ隊！』を設定し、身近な町の公園をいくつも巡り、それぞれの良さを考えたり情報収集をしたりして調べて分かったことをまとめたり、伝えたりする活動をした。

### ★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・地域人材、財産等の活用
- ・ICTの効果的な活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科（社会科・図画工作科）等との関連



＜公園巡り＞



＜阿品の森散策＞



＜プレゼンテーション＞

- ・実際に地域を見学したり、インタビューをしたりする活動を設定し、**児童が自ら課題を発見した**。その後児童が、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、調査や活動を通して分かったことを**スライドにまとめてプレゼンテーションを実施し、他者からのリアクションを受け取ることができるようにした**。

### 児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 普段何気なく生活している町にも、知らないことや場所がたくさんあることに気付くことができた。
- 阿品台の景色や施設、公園や地域の方など、興味をもったことについてグループで課題解決をし、「阿品台のすてき」が聞き手に分かりやすく伝わるスライドを作ることができた。
- ◇いつも使っている公園は、地域の方やボランティアの方がきれいにしてくれているから自分たちが楽しく遊べるのだということが分かった。
- ◇地域のいろいろなことが知れて、自分たちが住んでいる町がもっと好きになった。

単元名

# 阿品のすてき

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎ふるさと地域のすてきって何だろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●阿品のすてきなところって何だろうか？

【単元の目標】

自分たちの住む阿品地域のすてきな場所や人を発見し、それを保護者や地域の方に発信する活動を通して、地域に親しみをもち地域に関わろうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・阿品の森サポータークラブ
- ・国立研究開発法人水産研究教育機構水産技術研究所
- ・岩鏡神社飯田宮司

## ★学習活動のアピールポイント★



＜干潟観察＞



＜阿品の森＞



＜岩鏡神社＞

- ・国立研究開発法人水産研究教育機構水産技術研究所の方から干潟観察の仕方を学び、阿品の干潟の生き物を実際に観察する活動を通して、地元の貴重な干潟を大切にしようとする気持ちを高めた。
- ・阿品の森サポータークラブの方から、阿品の森を守る活動の意義や森に入る時の心得などを話してもらい学習すると共に、地域を支えている人々の存在を認識できるようにした。また、被爆アオギリ2世を植えられた地域の方の平和を思う気持ちに共感し、戦争の恐ろしさを知り平和を築いていこうとする児童の心情を育んだ。
- ・地元の岩鏡神社で宮司さんや総代さんから神社の歴史の話を聞き、祭神や神話に関して調べ学習をした。
- ・江戸時代からある「教え地蔵」・干潟の生き物・岩鏡神社の祭神に関する神話・阿品の森と被爆アオギリの物語をミュージカルという形で表現し保護者に発表した。

### 児童生徒の成長した姿 (○)

- 阿品の素敵な場所には、その地域を大切にしている素敵な人々がいることに気づき、自分たちも地域を守っていこうと意欲を高めた。
- 佐々木貞子さんや被爆アオギリ2世から平和を学ぶことを通して、平和集会で折り鶴を捧げると共に平和の誓いを述べる事ができた。
- 阿品の素敵な場所・素敵な人々を新聞にまとめたり、それを伝える劇を友だちと協力して表現したりする力を付けた。

### 児童生徒による振り返り (◇)

- ◇阿品には、いい人がいっぱいいて親切な町だなと思いました。阿品はきれいな海やいい景色があります。平和も学べます。
- ◇これからも、原爆や戦争が起こらないようにいろいろな人に語りついでいきたいです。
- ◇阿品には素敵が山ほどありました。干潟は色々な生き物がいて、岩鏡神社には沢山昔の物があり面白く、阿品の森には色んな植物や実があって阿品の素敵がいっぱいです。

単元名

串戸の福祉

～串戸のまちづくりをしよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎みんなが住みやすい町とは、どんな町だろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●みんなが住みやすい串戸にするために私たちにできることは何だろうか。

【単元の目標】

自分たちが住んでいる串戸の福祉について、体験活動やインタビューを通して知り、みんなが住みやすい町になるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市社会福祉協議会
- ・広島市手をつなぐ育成会・あひ隊
- ・ボランティアサークル飛来行
- ・手話サークルレインボー
- ・点訳クラブあい
- ・串戸保育園

活動の概要

「福祉って何だろう？」という問いかけから、自分たちが住む場所には、どのような人がいて、どのように生活しているのかについて調べていく中で、「みんなが住みやすい串戸のまちづくりをしよう！」という課題を設定した。手話、点字、知的障がい者疑似体験や保育所との交流を通して、体の不自由な人や幼児などがどのようなことに困るかを考えた。考えたことを生かして、子ども達一人一人が体の不自由な人たちにとって安心安全な生活を送るために自分達ができることについて話し合った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



<車いす体験>

<保育所との交流>

<点字体験>

<知的障がい者疑似体験>

- ・廿日市市の団体と連携し、5種類の体験活動を行った。様々な体験活動を仕組むことによって、誰もが安心して生活できる社会の在り方について主体的に考えることができた。
- ・知的障がい者疑似体験や車いす体験、点字、手話の学習、福祉施設との交流を通して、日常生活の中にある困難や不便さを体験し、支援や配慮の必要性に気付いたり、相手の立場に立って考えることで、思いやりや共感する心を育てたりすることができた。
- ・chromebookのスライドを使って、串戸の福祉について詳しく調べたり、分かったことをまとめたりして課題意識をもち学習に取り組むことができた。

児童生徒の姿 (〇)

- 〇町の問題点や安心安全な生活について考えることで、「自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこう」という「まちづくり」の視点をもつことができた。また、自分の生活と学んだことを結び付けて考え、自分ができることをやっいていこうという意欲をもつことができた。
- 〇様々な体験活動を通して、体の不自由な方やお年寄りの方などに会った時にどうすればよいかを一人一人が考え、実行しようという意欲をもつことができた。

単元名

## みんなの ビオトープ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎命と伝統をつなぐとは、どういうことだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●地域の自然やビオトープの良さを知ってもらうために、自分たちができることはなんだろう。

【単元の目標】  
宮園の豊かな地域の自然に触れたり、ビオトープに行って生き物を観察したり、植物を育てたりする活動を通して、自ら設定した課題解決に向けてグループで協力しながら活動に取り組むことによって、宮園ビオトープの良さを広く伝えることができる。

【連携諸機関・人物】  
・宮園ビオトープの会  
・トンボ博士  
・カブトムシ博士

### ★学習活動のアピールポイント★



＜キャベツの苗植え＞



＜カブトムシ博士＞



＜ 生き物観察 ＞



- ・ ビオトープで実際に野菜や虫の観察を行うなどの体験活動を通して、児童は自然のよさを体感し、課題意識をもって主体的に活動に取り組むことができた。また、下学年に学習したことを伝える活動では、相手意識をもって取り組むとともに、下学年がビオトープへの関心を高めることにもつながった。
- ・ 自分たちが取り組みたい課題を出し合い、興味・関心のあるグループで活動するという学習形態をとったことで、児童は主体的かつ計画的に活動することができた。また、地域の方と共に地域の財産であるビオトープで活動したことで、地域への愛着を深め、地域のために自分ができることをしたいと考える児童が94%いた。
- ・ 理科や国語など他教科で学んだ知識や技能を相互に関連付けながら、教科横断的かつ計画的に活動を行うことができた。

### 児童生徒による振り返り

- ・ 僕はこれからもビオトープの虫たちが生きやすい環境にするために、落ち葉を拾ったり川の水をきれいにしたりしたいと思いました。そしてもっとビオトープの虫を探したり、大根の水やりをしたりしたいと思いました。これからは1年生が僕たちのようにビオトープを大切にしてくれたらいいなと思いました。
- ・ これから1年生から6年生までのみんなにビオトープのよさを伝えたいです。そしてみんなでビオトープをもっとよい環境にしていきたいです。そのためにそうじをがんばり、ビオトープがもっときれいで、みんなが大切にしたい場所になるようにしたいと思います。

単元名

# Let's防災 ～土砂災害から地域を守れ～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎土砂災害から地域を守るために私たちにできることは何だろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●地域の人たちはどのようにして土砂災害から命や暮らしを守ろうとしているのだろうか。

【単元の目標】  
地域で起こり得る災害について調べ、災害から暮らしを守るための取組をまとめ、発信する。

【連携諸機関・人物】

- ・四季が丘市民センター
- ・四季っ子応援団
- ・見守り隊

## ★学習活動のアピールポイント★



<地域の防災の講話>



<防災倉庫見学>



<砂防堰堤・水路見学>

- ・四季が丘の地形を知ることで、どんな災害が起こりやすいか考えた。さらに、地域の方に来校していただき四季が丘の過去の災害についての話を聞くことができた。また、過去の災害を活かした地域での防災への様々な取り組みを教えていただいた。
- ・実際に防災に詳しい方々と地域を見学して回った。規模の大きな砂防堰堤や必要なものが揃えられた防災倉庫を見ることで実感を伴う学びとなった。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、講話や見学などの活動を通して分かったことを新聞にまとめ、特別教室黒板に掲示し、他者からの感想を受け取ることができるようにした。

### 児童生徒の成長した姿 (○)

- 地域の方が、普段気付くことのできなかつたところで、地域や地域に住む人々のために尽くしておられることに気付くことができた。
- 防災に対して、自分事として考えることができた。

### 児童生徒による振り返り (◇)

- ◇私たちの気付かないところで水路をきれいに掃除してくださっている方と実際に会うことができた。自分たちの生活を守ってくださっている方に感謝の気持ちを伝えていきたい。
- ◇四季が丘には砂防堰堤や防災倉庫、防災キャンプ、ハザードマップなどがあり、災害に対する備えが整っていることに驚いた。

単元名

発見！ふるさとのいいところ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎ふるさとのよさとはなんだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●友和には、どんな良いところがあるだろうか。

【単元の目標】

地域のよさを見つめ直し、建物、自然、伝統文化など様々なよさがあることに気づき、そのよさを守りたいという愛着心を育てる。

【連携諸機関・人物】  
・見守り隊

★学習活動のアピールポイント★



<親水公園の花壇作り>



<佐伯音頭>



<地域のおすすめマップ作り>

地域の「見守り隊」に協力してもらい、活動した。花壇作りでは、花壇の土作りや苗植えと一緒にいった。佐伯音頭は、お手本を見せてもらいながら学習した。マップ作りでは、地域探検に引率の支援に入ってもらった。地域の方と共に学習できることで児童が主体的に活動できるだけでなく、地域の方とのつながりを深く感じる事ができた。また、佐伯音頭は、学習発表会だけでなく、150周年の式典でも披露し、今後友和小学校の3年生が引き継ぐ土台ができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 広い校区なので、生活範囲以外を詳しく知らない児童にとっては、いろいろな施設や遊び場、買い物をするところがあることに新しい発見があった。
- 「佐伯音頭」は、この地域にしかない踊りであることを知り、誇りに思う気持ちを持った。
- 地域のよさを見つめ直すきっかけができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇あちこちにいろいろなお店や公園があって、思っていた以上にいいところがたくさんあるなど思った。
- ◇私たちがおすすめするよいところを、地域の人にもっと知ってほしいなど思った。

単元名

「サンフラワープロジェクト」  
～「津田のひまわり畑」をもちあげよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎津田の魅力を多くの人に知ってもらうには、どうすればよいか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●津田の町には、どんな魅力があるのだろうか？  
●津田のひまわり畑の魅力をどのように発信していけばよいのだろうか？

【単元の目標】  
地域の魅力を再発見し、地域内外に効果的に発信することを通して、地域活性化のための課題を解決し、自分の考えをまとめ伝える資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・佐伯商工会青年部
- ・津田商店街を創る会
- ・学校運営協議会
- ・中国新聞社

★学習活動のアピールポイント★



＜種をポットに植えています＞



＜商工会や地域の皆さんとの活動＞



＜ポットで育った苗を植えています＞

【概要】

令和4年度から、過疎化が進む地域の活性化のために佐伯商工会青年部を中心に休耕田を活用した「津田のひまわり畑」。しかし令和5年度は原因不明で開花せず、青年部も地域も落胆した。そこで、令和6年度は種まきから6年生を中心に全校児童が関わり、開花に至るまで青年部と連携し津田の魅力の再発見をすると共に、地域内外への発信を行った。※NHK 広島放送局、中国新聞社取材

また、昨年度は「昨年度はなぜ開花しなかったのか？」「もっとたくさん咲かせるためには？」というテーマで6年生が探求したものをまとめ、次年度に向けて商工会青年部の皆さん、学校運営協議委員、このプロジェクトを引き継ぐ4・5年生に向けてプレゼンテーションを行った。（リベンジ・サンフラワープロジェクト）※中国新聞社取材

本年度は、これまでの経緯を踏まえ、更なる地域活性化のためにひまわり畑を盛り上げようと、佐伯商工会青年部との連携を強化し、昨年度の6年生が探究した内容を反映させた種まきを、全校児童で春に行った。※中国新聞社取材

猛暑のため、開花していた期間は短かったが、これまで学習したことが活かされた活動になった。単発でなく、これまで受け継がれてきたものを強く感じる事が出来た取組となった。

児童生徒の姿 (○)

- 「地域貢献」という大きな目標に向けて、自分たちがなし得ることを懸命に取り組む姿が見られた。
- 学校運営協議会、津田商店街、佐伯商工会等を巻き込む大きなプロジェクトになり、児童たちも達成感を得ていた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇郷土の良さに改めて気づいた。これからも津田が盛り上がると嬉しい。
- ◇次年度もこの活動を在校生に受け継いでもらい、本校の伝統の一つとしてほしい。

単元名

吉和の宝を見つけ、発信しよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎10年後、吉和がどんな地域になればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●吉和の宝は何だろうか。

【単元の目標】  
・吉和地域の宝（魅力）について理解を深め、その魅力を他者に分かりやすく伝える方法を考え、発信することを通して、地域の一員として地域の活動に取り組もうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・吉和漁業組合の方（安藤さん 山崎さん）
- ・地域の方々

活動の概要

・吉和の魅力の一つである吉和川での漁業に注目し、アユの放流や吉和川の清掃活動を通して得た情報から、吉和川を守るためにできることを考え、ポスターを作成した。作成したポスターを吉和漁協の会議等での掲載を依頼することで、地域の一員として吉和の未来に主体的にかかわることができた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜アユの放流体験の様子＞

＜河川清掃の様子＞

＜縦割りグループでの活動＞

- ・放流体験という実体験に基づく学びができたことで、漁業の仕組みや働く人の願いを体感的に理解することができた。また、自然条件と向き合うことで、計画と実行の調整が必要となり、児童自ら課題発見・調整等の学びのサイクルを身に付けることができた。
- ・グループは3～6年の縦割りで構成し、高学年が3・4年生にスライドの作成方法や発表の仕方を教え合える学習形態の設定をした。
- ・漁業組合の方と連携し、今の吉和川を守るためにポスターを作成するという活動を設定することで相手意識をもってポスターを作成できた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方へのインタビューや放流体験を通して、吉和地域の漁業について詳しく学ぶことができた。放流したアユを給食で提供していただいたことで、自分たちが清掃を行った川をこれからも大切にしていきたいという気持ちが高まった。
- ◇吉和の漁業を支えている人たちの努力や思いを知ることができた。これからも地域の宝を大切にし、吉和の川をきれいに保ったり、感謝してアユやアマゴを食べたりしていきたい。

単元名

なつが やってきた・いきものと なかよし  
たのしいあき いっぱい

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎身近な自然は、自分たちにどのような恵みをもたらしているのだろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●自分たちの身の回りには、どのような自然があり、どのようなよさがあるのだろうか。

【単元の目標】  
○身近な自然に進んで関り、美しさやよさを見付けたり、変化に気付いたりできる。

【連携諸機関・人物】  
・学校近くにお住いの農家の方  
・三槍社

★学習活動のアピールポイント★



- <れんげばたけであそぶぞ> <テントウムシを見つけたよ> <どんぐりめいろができたよ>
- ・れんげ畑は、学校からとても近い場所にあるため、年間を通して気軽に観察に行き変化を見付けることができる。
  - ・虫取りの後、飼育した気付きを、国語科の「はっけんしたよ」の作文単元に生かすことができる。どんぐりや拾った落ち葉、木の実で見立て遊びをし、国語科の「なにに見えるかな」の話合い単元に生かすことができる。

児童の成長した姿 (○)

- れんげがきれいに咲いていた場所が、全く印象の違う田んぼになっていたり、青い稲が重く実ったり、刈り取った後に更にひこばえが生えたりして、見るたびに变化する様子に驚いていた。
- 生活科で実際に経験したことを国語科の学習に生かすことができ、児童が話したり書いたりする素材をもって学習に臨むことができた。

児童による振り返り (◇)

- ◇田んぼいっぱいのお米(稲穂)があって、びっくりした。
- ◇神社にたくさんのどんぐりが落ちていて、また拾いに行きたい。
- ◇いろんなかたちのどんぐりがとれて嬉しかった。

単元名

## みんなでつかう まちのしせつ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎自分たちの街のくらしを豊かにするためには、何が必要だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●まちにはどのような施設があり、自分たちの生活とどのようにつながっているのだろう。

【単元の目標】

○公共施設の見学を通して、それらのよさを感じたり、働きを捉えたり、それらを支えている人々がいることに気付く。また、公共施設やそこで働いたり活用したりしている人々を大切に思うことができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・まるくる
- ・大野図書館
- ・大野東市民センター
- ・大野学校給食センター
- ・施設の職員の方々
- ・各地区の区長さん
- ・学校支援ボランティアの方々

### ★学習活動のアピールポイント★



＜大野給食センター＞



＜大野東市民センターのかまどベンチ＞



＜大野図書館内の書庫＞

- ・どこにどんな施設があるのかを校区地図に示すことで、身近な場所にたくさんの施設があることを知り、「行きたい、見たい、知りたい。」という関心・意欲をもたせることができた。生活を支えていることに気付かせることができた。
- ・それぞれの施設で、備え付けてある物を見たり、話を聞いたりすることで、まちの人みんなが楽しく利用しやすくなるように、様々な工夫がなされていることに気付かせることができた。
- ・まるくるや市民センター等、災害の時の避難場所になっていて、まちの人達にとって安全で安心できる、くらしを支える場であることに気付かせることができた。

#### 児童の成長した姿（○）

- 自分たちが生活している周りには多くの施設やお店があり、それらにかかわって働く人々がいることに気付いた。
- 公共の施設やお店ごとに、地域とのつながりや利用者のことを考えた工夫がされていることを知った。

#### 児童による振り返り（◇）

- ◇給食センターには安全な給食を作るために、野菜の洗い方など、たくさんの決まりがあることが分かった。
- ◇大野東市民センターは、災害が起きた時にみんなの命を守るような工夫がされていた。

単元名

## 大野のすてきな人を見つけよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎共に分かり合い、共に生きるためにどんな学び方をしていくとよいのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●ふるさと大野で、大野のために活動しているすてきな人とはどんな人だろうか。また、どんな気持ちで活動しているのか。

【単元の目標】

◎見学や体験活動を通して収集した情報を整理し発信することを通して、地域のよさを再認識し、人との関わりを大切にしていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市社会福祉協議会
- ・手話サークル
- 「かざぐるま」
- ・点訳グループ
- 「てのひら」
- ・特定非営利活動法人友志人福祉会

### ★学習活動のアピールポイント★



< 手話体験 >



< 点字体験 >



< 車椅子体験 >

- ・ボランティア活動に携わっている方や障害をもった方から実際に話を聞いたり、体験活動をしったりする機会を複数回設けることで、ボランティア活動を身近に感じ、自分たちでもやってみたいと思えるよう計画した。
- ・児童が主体的に課題を見つけ、意欲的に調べ学習に取り組むことができるよう、4つの体験活動の中から、より調べたいことを選択できる学習形態にした。また、そのことを新聞にまとめた。
- ・体験活動を通してボランティア活動をしているすてきな人に気付くとともに、自分たちができる活動を見つけ、実際に取り組んだ。

#### 児童の成長した姿 (○)

- ボランティアの方や障害をもつ方に実際に触れ合うことで、ボランティアに興味をもつことができた。また、どんな気持ちで活動しているかを知り、共に分かり合い、共に生きるにはどんな接し方や気持ちが大切か学習できた。
- 新聞にまとめることで、情報を整理・取捨選択し、工夫して表現する力を身に付けることができた。
- 身近な点字やユニバーサルデザインに興味をもち、本やインターネットで調べ、知識が広がった。

#### 児童による振り返り (◇)

- ◇障害のある人に出会ったら、習ったことを生かして、接してあげたいと思いました。
- ◇家にある電化製品にたくさんの点字があつて驚きました。ほかにも見つけたいです。
- ◇自分もすてきな人になれるように、がんばりたいです。
- ◇介助者と介護者両者の気持ちを知り、やさしく声を掛け、笑顔で話すことが大切と思いました。

単元名

## 災害を調べよう・災害に備えよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎「命を大切に作る」ためにできることは何か。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●「自助」「共助」自分にできることは何だろう。

【単元の目標】

○自分たちが住んでいる地域にはどんな災害が起こりうるのか、廿日市市ではどのように備えているのかを知ることによって、自分たちがどのように災害に備えればよいかを考える力を育てる。

【連携諸機関・人物】

・廿日市市役所大野支所  
防災相談員

（三浦勇二さん他3名）

・大野消防署消防士2名

・廿日市市防災アドバイザー  
（野田崇さん）

### ★学習活動のアピールポイント★



<出前講座の活用（講話）>

<出前講座の活用（体験）>

<発表（防災の取組）>

・出前講座を活用したことで児童が興味をもって学習に取り組んだ。また、実際に段ボールベッドや段ボールトイレを組み立て、体験をしたことで理解も深まった。

・消防士さんや防災アドバイザーの方から話を聞き、防災用品を手にとってみたり、実際に新聞紙でスリッパを作ったりして体験的に学習することができ、さらに調べたいことが見つかった。

#### 児童の成長した姿（○）

○学習したり、調べたりしたことをスライドにまとめることで、情報収集する力、集めた情報を整理する力がついた。

○参観日や3年生への発表に向け、防災・減災について調べて分かったことをスライドにまとめたり、実際に応急手当をやって見せたりすることで、防災に対する理解が深まった。

○自然災害を止めることはできないが、被害を少なくすることができることを理解し、日頃からの備えが大切だという気持ちが深まった。

#### 児童による振り返り（◇）

◇廿日市・大野地域でもこれまで大きな水害が起こっていることが分かった。

◇災害に備え、防災用品を備えたり、点検し直したりしたいと思った。

◇災害が起きてけがをした時に、どのような行動をとればよいか分かった。

◇防災について分かったことを、みんなに知らせ、大野のまちを災害から守りたい。

単元名

「廿日市の「味力」伝え隊」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎私達は地域にどのように関わっていけばよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●自分たちの地域を活性化するために私達ができることは何だろうか？

【単元の目標】

- 地域食材を調べることを通して、食材や地域のよさに気づく。
- よさを生かしたメニューの開発・発信を通して、大野の良さを再発見する。
- 探求的な学習に主体的に取り組むと共に、友だちと協力し、積極的に地域の人々に関わろうとする。

【連携諸機関・人物】

- ・ 深江あさり漁場組合  
泉さん
- ・ 地域の農家の方  
吉岡さん

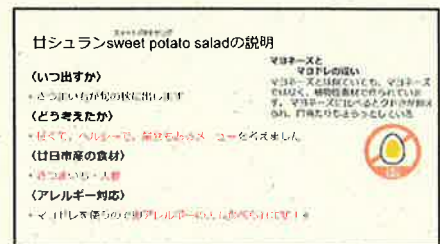
★学習活動のアピールポイント★



＜あさり掘り体験＞



＜地域の方にインタビュー＞



＜廿シランメニュー＞

- ・ 意欲的に取り組めるよう、学習の導入段階で栄養教諭と連携して廿日市の食材について考えた。そしてその食材を使った給食献立を考え給食に取り入れてもらうという活動にした。
- ・ 食材がどのように育てられているのか、どのように守られているのか体験活動や地域の方の思いを聞くことを通して、食材と共に地域のよさを実感しみんなに伝えたいという思いをもたせるようにした。
- ・ 給食の献立を考えるというゴールを明確にし、食材の旬や組み合わせ、栄養価、調理方法など多角的に考えて主体的に調べ学習ができるようにした。

児童の成長した姿 (○)

- 学習の導入段階で、栄養教諭と連携して廿日市の食材について考え、最終的に給食メニューに取り入れてもらうという活動にすることで、意欲をもって地域の食材の魅力を調べたり、オリジナルメニューを作ったりすることができた。
- 地域の方の話聞くことで、地域のよさに気づき広めたいという思いをもつとともに、地域への愛着の気持ちをもつことができた。

児童による振り返り (◇)

- ◇あさりが「大野ブランド」だということを知った。これからはあさりがたくさん育つように海をきれいに守っていききたい。
- ◇地域の食材の素晴らしさを感じた。地域のよさとしていろいろな人に伝えていきたい。
- ◇給食に提供するために大切に野菜を育てていることを知った。みんなにおいしく食べてもらえるように給食メニューを考えることができた。残さず食べていきたい。

単元名

# 「大野の今を見直そう！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
 ◎地域のよさに気づき、地域に愛着がもてるようにするにはどうすればよいか。

【連携諸機関・人物】  
 ・大野歴史ガイドの会

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
 ●大野の町の魅力は何だろう。

【単元の目標】  
 ○大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切にし、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える。

## ★学習活動のアピールポイント★

<イボ観音>



何と弘法大師様ゆかりの碑。通りかかった疣だらけの人のイボを取ってあげたことに由来する。灰を取って祈ると取れるとのこと。

<中山峠>



この山道が昔はまさかの生活道。大砲車のお話も面白かった。この道を通って移動することの大変さを改めて実感した。

<蓮華寺>



大野東小学校の前身。入口に吊るされた鐘は、戦時中にイギリスに持ち出され、戦後まもなくして大野に戻ってきたとのこと。

- ・歴史ガイドの会と連携し、学級ごとにガイドさんと一緒に史跡を巡り、それぞれで詳しく説明をお聞きした。ここで全ての疑問に答えていただくことが難しいため、事前の調べ学習でもった疑問を伝え、答えていただいたことについて探索後、学習を深めた。
- ・社会科の歴史学習における理解を深めることができた。
- ・道徳「天下の名城をよみがえらせる」という資料において歴史的建造物を大切にし、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。
- ・学んだ事をノートに整理し、その後、ICT 機器を用いるなどしてまとめた。見たり聞いたりして分かったことだけでなく、大野の歴史を知ることを通して感じたことや考えたことも、交流し合った。
- ・自分たちが感じた大野の魅力を他学年の人たちに伝えようと紙芝居を作ったり、スライドにまとめたりするなどして準備を進めた。

### 児童の成長した姿 (○)

- 大野にはたくさんの史跡があることを知り、自分たちも史跡を守りたいという思いをもった。
- 本校の前身である蓮華寺の鐘が、第2次世界大戦後に外国で見つけたことに驚いた。社会科で学んだ戦時中の生活として聞いた話が身近に起きていたことを知り、地域の歴史についてより深く興味をもつことができた。

### 児童による振り返り (◇)

- ◇ふるさと大野に自分たちが今までまるで気付かなかった歴史があり、まだまだ知らない魅力が隠されていることを知ってびっくりしました。
- ◇自分たちが感じる事ができた魅力を他の学年の人たちにも伝え、みんなでもっと大野を大切にしていきたいです。

単元名

「大野のステキを見つけよう  
～大野の達人から学ぼう～」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎大野にはどんなステキがあるのだろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●わたしたちの周りにはどんなステキな人がいるのだろう。

【単元の目標】  
大野の達人から学ぶことを通して、大野の伝統文化に関心をもつとともに人との関わりや大野の良さについて考え、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】  
・烏神太鼓メンバーの皆さん  
(リーダー 三好 哲幸さん)  
・妹背製菓 伊藤 彰二さん

★学習活動のアピールポイント★

<烏神太鼓 演奏体験>



<妹背製菓 和菓子づくり体験>



- ・2年生の時の町探検のことを思い出したり、地域に伝わる伝説についての話を聞いたりして、大野にはステキな伝統文化があることに気づき関心を高める。
- ・地域の伝統文化に関わる人の思いや願いを聞き、体験活動を通してその素晴らしさを知ること、伝統を大切にしたいと考える態度を育てる。
- ・お世話になった達人たちに、学んだことや考えたことを手紙にして届ける。
- ・大野の伝統文化のステキなところを伝えるために、パンフレットづくりに取り組む。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 自分たちの住む大野の町を大切にしていこうとする意欲が高まった。
- 大野に残る伝統文化を守っていこうとする態度が育った。
- 学んだ伝統文化以外のものにも興味をもって調べたり、体験しようとしたりする姿が見られた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇烏神太鼓にはたくさんの歴史があることがわかった。教えてくださった達人たちは伝統を守っていくために、子どもたちが楽しんで体験できるように考えているのだと思った。
- ◇妹背製菓さんは、代々和菓子を作られていて仕事に誇りをもっておられるのだと思った。伊藤さんは和菓子を簡単そうに作っていたけれど、実際に作ってみると難しかったが、またやってみたいと思った。

単元名

「誓真さんを多くの人につたえよう」

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎自分たちが地域に貢献するためにはどうすればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●地域に貢献した人物について知ってもらうには、どうすればよいだろうか。

【連携諸機関・人物】

- ・光明院住職
- ・京都大原学院校長
- ・宮島支所
- ・元宮島水族館職員

【単元の目標】

自分たちが住んでいる誓真さんの功績について知り、誓真さんのすばらしさを観光客に伝えることを通して、ふるさとへの誇りをもたせる。

★学習活動のアピールポイント★



- <現地の取材・聞き取り> <観光客にインタビュー> <地域(etto 宮島交流館)で作品の掲示>
- ・実際に現地に行き、誓真さんのことを知っている人に聞いたり、功績を見学したりすることで、児童が課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度が育った。
  - ・意欲的に課題解決に向け学習を進めていくことで、新たな疑問が生まれ、解決していくことでさらに学ぼうとする意欲や態度が育った。
  - ・学んできたことを新聞にまとめて整理したり、ポスターを描いたりしたことを地域の重点的箇所に掲示することで、児童の達成感や地域に貢献しようとする心情を育てることができた。

児童生徒の成長した姿 (○)

- 宮島には昔から誓真さんをはじめたくさんの方のすばらしい方がおられることを知り、宮島はすばらしいと思った。
- 誓真さんのことを観光客に伝えるという、相手意識が明確になったことで、学習意欲が高まった。(自分が伝えたい表現をするために友達と協働的に学習した。)
- 中学生と一緒に学習を進めることができた。(中学3年生に英語を教えてもらった。)
- 新聞づくりを行い、地域に掲示することで、地域に貢献できたという達成感をもった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇取材をすることで、誓真さんの功績がよくわかった。
- ◇誓真さんのことをよく知らない観光客が多くいた。これからも新聞やポスターなどで、観光客に伝えていきたい。

単元名

世界遺産のある宮島の魅力発見！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎魅力あるふるさととはどういうものだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●ふるさとの魅力は何によってできているのだろうか。

【単元の目標】  
・「宮島学習」を通して、情報収集の方法、実地調査の計画立案方法、発表の準備手順を理解し、発表のスキルを身に付ける。  
・「宮島学習」を通して、ふるさと廿日市・宮島を中心にふるさとを見つめ直すことで、地域との関わりを捉え直す。

【連携諸機関・人物】

- ・市役所（宮島支所）
- ・厳島神社
- ・宮島観光協会
- ・宮島表参道商店街
- ・宮島伝統産業会館
- ・宮島水族館 他

★学習活動のアピールポイント★



<宮島産業体験学習>



<宮島学習クラス発表会>



<宮島訪問インタビュー>

- ・広島の世界遺産の産業、文化、自然についての学習を通して、ふるさと廿日市・宮島の魅力が何かを考えた。
- ・宮島の特色を提示し、その魅力をさらに深く広く発見するために、新たな課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ等の仮説検証の方法を生徒自身が考えて取り組んだ。
- ・課題解決のために、計画を立て、実際に現地を見学したり、特産品を購入したり、体験したり、訪問インタビューをしたりする活動を生徒自ら設定し、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・調査や活動を通して分かったことをスライドにまとめ、各クラスで発表した後、文化活動発表会で展示することにしたことで、お互いの発見を共有するとともに、他者へ発信することができるようにした。

児童生徒の成長した姿（○）

- 自分たちの疑問から課題を設定することで、より主体的に学習する姿が見られた。
- 自分たちで「廿日市市の魅力」を発見し、よりよく生きるというコンセプトで取り組んだことで、単なる調べ学習とは違い、活動を主体的に楽しむ姿や本気で課題に取り組もうとする姿が見られた。

児童生徒による振り返り（◇）

- ◇今回の学習で、今まで気付かなかった地域の方々が、廿日市のために頑張っていることが分かるようになった。
- ◇班で分担してスライドを作ったので、内容を充実させることができた。
- ◇新たな事実や課題を知ったことで、廿日市市の様々な魅力に対して、真剣に守り、継承していかなければならないと考えられるようになった。

単元名

「防災学習チャレンジ」  
～災害を乗り越える街づくり・人づくり～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎どんな時もみんなが安全に暮らせる街にするには、どうすればよいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●災害が起こった時、安全を確保するにはどうしたらよいだろう。

【単元の目標】  
①備えの必要性や情報の活用について考え、的確に判断できるようになる。  
②危険予測を基に計画的に備え、主体的に安全な行動ができるようになる。  
③災害時の助け合いの重要性を理解することができる。

【連携諸機関・人物】  
・市役所（危機管理課）  
・地域自主防災会（平良地区リーダー）  
（原地区リーダー）  
（串戸地区リーダー）

★学習活動のアピールポイント★



＜市役所の方の講話＞



＜グループ別学習＞



＜防災学習発表＞

- ・市役所の危機管理課の職員の方、地域の自主防災会の方にご協力を仰ぎ、「防災学習チャレンジ」の単元の始めからまとめまでを通して、生徒の学習を支えていただいた。
- ・学習のコンセプト「災害時、自分が一人で家にいても、生き延びられるか」を基に、生徒がテーマごとに分かれ、主体的に探究活動を進めた。
- ・テーマは、「緊急避難情報」「防災シミュレーション」「防災袋」など調査活動のほか、「簡易トイレづくり」「段ボールベッドづくり」「防災食づくり」等の創作活動も設定し、地域や市役所の方と楽しく学習することができた。
- ・発表会では、地域の方や保護者の方をお招きして学習成果をプレゼンテーションし、地域防災のために中学生がアクションを起こす姿を評価していただいた。

生徒の成長した姿（○）

- 自分たちが知らないところで、地域の方が防災のために尽力してくださっていることに気づくことができた。
- 地域の方々への感謝とともに、地域に貢献する人になりたい、人の役に立つ人になりたいという思いを持つ生徒が増えた。
- 今回の学びだけに留まらず、家族や地域、次世代など多くの人に防災の必要性を広め、災害に備えたいという思いが強まった。

生徒による振り返り（◇）

- ◇地域のために日々努力してくださる人の存在を知ってありがたいと感じました。
- ◇人の役に立つ仕事につきたいと思いました。
- ◇自分も地域防災に努めて下さる方々の力になれるよう行動したいです。
- ◇防災袋や家具の固定、家族との避難場所確認等の防災対策をし、周りにも伝えたいです。
- ◇学んだ知識を、地域や次世代に伝え、より多くの人に防災の必要性を広めたいです。

単元名

「ふるさと学習Ⅰ(阿品・阿品台)防災学習」  
「ふるさと学習Ⅱ(宮島)」

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎地域の課題を解決し、魅力を高めるために何ができるだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●私たちの住む廿日市市は、どのような特色を持っているのだろうか。

【単元の目標】  
自分たちが住んでいる街について知り、課題を発見するとともに解決方法を考え、地域と主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市大野支所
- ・廿日市市健康福祉総務課
- ・廿日市市危機管理課
- ・廿日市消防署西分署
- ・自衛隊広島地方協力本部広島事務所

## 活動の概要

- ・阿品台地区の防災について、連携機関からの講義及びデジタル機器を活用して情報収集しまとめ、まとめの交流を通して協働的に学んだ。地域の防災活動と連携して学習内容の発表を行った。
- ・宮島学習では、個人テーマを設定し、解決するためのフィールドワークを通して、地域の良さや課題を再発見した。

## ★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



<防災学習>



<マイタイムライン講習>



<阿品台防災自主訓練>

- ・防災について課題に対応した複数のグループを編成し、主体的・協働的に計画・実行できるような学習体制を整えた。
- ・地域の方との交流や、地域の防災力の講話や災害で役に立つ体験学習を通して、学びを深めることができた。
- ・マイタイムラインの講習を通して、ハザードマップを見ながら自分の住んでいる場所の安全確認や最寄りの避難場所の確認、避難時の安全な経路の確認をすることができた。
- ・学習したことをプレゼンテーション資料にまとめて校内で発表するにとどまらず、地域で実施された防災訓練においても発表した。地域との連携を図ることにより、中学校での学習内容について地域に広げることができた。
- ・地域の宮島観光ガイドの方から、宮島の歴史や観光、自然などについて幅広いお話をうかがい、個人テーマを設定し、実際に宮島を見学したり体験したりする活動のなかで地域の良さや課題を再発見することができた。

## 児童生徒の姿(○)、児童生徒による振り返り(◇)

- 多くの地域の方や専門家に多角的に講演や実演をしていただくことで、実際の災害時にはどのように行動すべきか主体的に考えることができた。
- 個人でテーマ設定をし、宮島について幅広い分野から課題設定することで、今まで知らなかった宮島について深く学ぶことができた。
- ◇共助を行うために地域の人々と日頃からコミュニケーションを取るなど、地域の人々とのつながりを築くことが大切だと分かった。
- ◇今までの学習を通して、避難の仕方や、いろいろな災害に対してどう対応すれば良いか、南海トラフ巨大地震についてなど色々なことを学んで、いつ災害が来てもいいように備えることが大事だと思った。

単元名

～宮島の魅力を発見し、  
伝えられるようになろう～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

◎自分が住んでいる地域に誇りを持つとは？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

●ふるさと宮島にはどのような魅力があるのか。

【単元の目標】

ふるさと宮島について調べ、魅力を発信する活動を通して、ふるさと宮島への誇りをもつ。

【連携諸機関・人物】

- ・宮島歴史民俗資料館
- ・株式会社ジブノオト 大野 圭司様
- ・厳島神社
- ・宮島水族館
- ・etto 宮島交流館
- ・インタビューに協力してくださった事業所・行政機関、観光客の皆さん

★学習活動のアピールポイント★



<マナー講座>

ふるさと宮島の歴史や観光地としての特色を調べていくことで、新たな魅力を発見・発信できるように本単元を設定した。

学習活動としては、①宮島歴史民俗資料館の方の講話を聞き、宮島と住んでいる地域のつながりを知る。②テーマごとにICTを活用して事前調査を行う。③誰に、どのような内容のインタビューを行うのか考える。④マナー講座を通じて、インタビューの仕方を学ぶ。⑤実際に現地に赴き調査・インタビューを行う。⑥班ごとにスライドを作り、別のテーマについて調べた班やクラス・学年の前で発表をする。という活動を行った。



<現地調査>



<班ごとの発表>

児童生徒の成長した姿 (○)

- 慣れ親しんだ宮島であるが、今まで知らなかった宮島の歴史や伝統を知り、改めて宮島の魅力に気づき、魅力を発信することができた。
- テーマに基づいて、集めた情報を宮島の魅力がより伝わりやすくなるように整理し、工夫してまとめることができた。
- ICTを活用し、相手に伝わりやすくするように、発表することができた。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇お店の方にインタビューをして、宮島の魅力に触れることができました。他の班の発表で、知らないこともたくさん知ることができました。
- ◇グループの団結や話し合いを大切にして取り組みました。スライドや原稿に調査をしたことをうまくまとめることができました。
- ◇自分が知っていることは宮島の一部だと感じました。今まで興味があっても調べなかったことがありましたが、今回の学びを機に、これからはきちんと調べてふるさとについてもっと知りたいと思いました。

単元名

観光客が求める廿日市市の魅力

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎廿日市市へ観光に来る人たちは何を求めて来るのだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●観光地「宮島」を訪れる人はどこから来て、何が目的なのだろうか。

【単元の目標】  
宮島の観光に来ている日本人や外国人の方たちは、何に魅力を感じて来ているのか調べることを通して、廿日市の魅力を再認識させる。

【連携諸機関・人物】  
・宮島松代汽船株式会社  
・宮島水族館

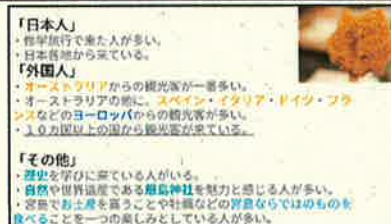
★学習活動のアピールポイント★



<校外学習>



<相互発表会>



<発表スライド>

- ・ 事前に作成したアンケートを実際に宮島を訪れている日本人や外国人の観光客に行い、どのような地域から来ているのか、何を目的としているのか、宮島以外にどのような観光地に興味があるのかを調査することで多角的にふるさと廿日市について考えることができた。(校外学習)。
- ・ 宮島校外学習で収集したアンケート結果を基に、日本人観光客、外国人観光客の傾向や共通点などをまとめて相互発表を行うことで廿日市の魅力を再認識することができた。(相互発表会)

児童生徒の成長した姿 (○)

- 今まであまり意識してこなかった「廿日市の魅力」を今回の学習を通して再認識し、「廿日市の魅力をより知りたい」という意識に変わりつつある。
- 様々な国から来ている観光客とコミュニケーションをとることで、文化の違いなどの国際理解が深まっていた。言葉だけではなく、ジェスチャーで相手に伝えるなど表現方法の工夫が見られるようになった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇外国人の方にも伝わるように英語で話したり、ジェスチャーを付けたりしながらアンケートをすることができました。学習を通して、今まで自分が知らなかった宮島の隠れた魅力について興味を持つことができました。
- ◇今まで自分の地域についてそんなにたくさん見ていたわけじゃないけど、今回の宮島のアンケートで、いろんな人が感じている廿日市の魅力を聞くことができたので、もっと廿日市の魅力を知りたくなった。

単元名

津田商店街活性化プロジェクト

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎故郷のよさとは？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●より多くの人に津田商店街に来てもらうには？

【単元の目標】  
有名な商店街や観光地に関する情報収集・分析力を身に付け、津田商店街活性化のための提案をすることで表現力を高めると同時に、故郷のよさに気づき、地域の一員としての自覚をもつ。

【連携諸機関・人物】  
・黒木 真由 様  
(合同会社とこらぼ)  
(津田商店街ナガスタ)

★学習活動のアピールポイント★



<情報収集の様子>



<ゲストティーチャーの講義>



<現地アンケート>

- ・様々な方法での情報収集 (クロムブックの活用、宮島での現地アンケートなど)
- ・津田商店街からゲストティーチャーを招き、商店街の歴史や現状を聞く。



<学習発表会でのプレゼンテーションの様子>

児童生徒の成長した姿 (○)

- 主体性  
「津田商店街活性化プロジェクト」で発表したことを実現するために、行動に移した生徒や、下見に行った生徒もいた。実際に津田商店街を盛り上げるため、地域の人と一緒にダンスを踊り、SNSで発信する動画を作成する計画が進行中である。
- 協働的な姿勢  
スライド発表の際は、まず全体の流れをつくり、それからそれぞれの話題の発表担当を決めるなど、協働的な姿勢が見られるようになった。

児童生徒による振り返り (◇)

- ◇津田の人は優しい人が多い。
- ◇佐伯には、食べ物の特産品が多い。
- ◇自然が豊か。
- ◇津田商店街は店舗数が増えてはいるが、後継者不足という問題がある。
- ◇どの班も、グラフや動画を使って分かりやすい発表ができていた。
- ◇実際に津田商店街に行って動画を撮っているところがすごいと思った。

単元名

吉和の未来を考える I  
～吉和の匠を見つけ、広めよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）  
◎10年後、吉和がどんな地域になればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）  
●吉和の匠は、どのような思いをもって働いているのだろう。

【単元の目標】

・吉和地域の匠（魅力）について理解を深め、その魅力を他者に分かりやすく伝える方法を考え、発信することを通して、地域の一員としてふるさとに誇りをもち、地域のためにできることを考え取り組もうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・はつもり特派員（益田さん）
- ・吉和ラフリーズ（川崎さん、齋藤さん）
- ・吉和支所、ふれあい交流センター（安藤さん、岡本さん）
- ・NAKAZAWA（光井さん）
- ・もみの木森林公園（森田さん）

活動の概要

これまで吉和の宝（魅力）に注目し、そのよさを伝える学習をしてきた。今年度はその宝を守っている匠（人）に焦点を当て、学習を進めた。インタビューや体験活動を通じて得た情報から、吉和の匠の思いとともに吉和の宝を発信する方法を考え、ブログ記事を作成した。ブログ記事をはつもりホームページに掲載していただき、地域の一員として吉和の未来に主体的にかかわることができた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜吉和ラフリーズインタビューの様子＞

＜もみの木森林公園体験活動の様子＞

＜ブログ作成の様子＞

- ・インタビュー活動を通じて、吉和には専門性をもって地域貢献している匠が多くいることを理解し、地域への愛着を深めることができた。
- ・ブログ記事作成の前段階として、匠を表すトピックを考え、地域の方々に発表した。（まとめ・表現）地域の方に活動内容を知ってもらうことで、つながりを深めながら取り組むきっかけとなった。
- ・ブログ作成はChromebookを使用した。ペアで一人の匠について考えることで、対話を通じて一人一人の意見や考えを文章に反映させることができた。ブログに掲載する写真も自分たちで選ぶことで、より主体的に取り組むことができた。また、はつもり特派員の益田さん（ビデオグラファー）に、読者を引きつけるトピックや文章の書き方を添削してもらうことで、よりクオリティの高いブログを完成させることができ、生徒の達成感にもつながった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方へのインタビューや体験活動を通じて、吉和地域には専門性の高い匠が大勢いらっしゃることに気づき、そのことに誇りをもつ様子が見られた。
- ◇吉和にはたくさんの匠がおられ、努力や苦勞をたくさんされていることがわかった。ふるさと吉和を住み続けられる町として盛り上げていくために、吉和を知らない人たちに、吉和の匠や宝を伝えていきたい。まだ紹介できていない匠もいらっしゃるの、来年も取り組んでいきたい。

単元名

被爆80年を迎えたヒロシマと大野

～持続可能な平和な町をめざして～

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎平和な世界を築くには、どうすればよいだろうか。

【連携諸機関・人物】  
・被爆家族伝承者  
・広島大学学生

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●被爆から80年、人類は平和とどう向き合ってきたらうか。

【単元の目標】  
・平和学習を通して、情報収集の方法、合意形成の仕方、発表の準備手順を理解し、探究学習のスキルを身に付ける。  
・平和な町にするために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

★学習活動のアピールポイント★



＜被爆家族伝承者講話＞

＜広島大学学生の講話＞

＜広島大学学生による助言＞

- ・広島・長崎の原爆による被害や現在進行中の戦争について調査・提言する活動を設定し、生徒が平和について考え、平和な世界を築くためにはどうすればいいかを、自分ごととして主体的に考えることに取り組んだ。
- ・大きな課題は提示し、その解決のための新たな課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ等の探究学習の方法を生徒自身が考えて取り組んだ。
- ・調査や活動を通して分かったことをクロムブックのスライドにまとめ、各クラスで発表した。

児童生徒の姿 (○)

児童生徒による振り返り (◇)

- 自分達の疑問から課題を設定することで、主体的に学習する姿が見られた。
- 被爆家族伝承者や平和学習に関心を持っている大学生の話を通じて「原爆・戦争」を、遠い昔のことではなく、今も起こり得る身近なものとして考えるようになった。
- 自分達で提言を考えることで、単なる調べ学習とは違い、課題を解決しようとする姿が見られた。

- ◇大野陸軍病院の被害を知り、戦争や原爆がより身近なことだったと感じられた。
- ◇被爆者も少なくなっている中、語り継いでいける人を増やすためにも大野でももっと平和学習を取り入れたら良いと思った。
- ◇どこに住んでいようと、周りに合わせて流されるより自分の意見を強く持つことが大切だと感じた。

単元名

## 廿日市と京都の比較学習

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)  
◎廿日市をよりよくするために、自分は何ができるだろうか？

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)  
●観光地における自然や暮らしの違いは何だろうか？

【単元の目標】  
自分たちが住んでいる廿日市・大野と修学旅行先の京都・大阪を比較し、自分たちの街をよりよくするための分析を行い、将来実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】  
・被爆体験講話講師  
・大阪・関西万博関係者  
・修学旅行先宿泊ホテル  
・班別自主研修利用交通機関  
・京都市内の人々

### ★学習活動のアピールポイント★



＜被爆体験講話＞

＜大阪・関西万博＞

＜壁新聞での発信＞

- ・修学旅行先では、情報を収集するために計画を立て、実際に施設訪問や現地見学、インタビュー等を行い、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・廿日市と京都の文化や暮らしの違いを比較するだけでなく、大阪・関西万博での学習を通して、国や時を越えてよりよい暮らしについて考える学習活動を行った。
- ・整理・分析・まとめにおいては ICT を活用し、スライドにまとめた内容を発表・展示し、探究した学習を発信する場を設けた。

#### 児童生徒の成長した姿 (○)

#### 児童生徒による振り返り (◇)

- 被爆体験二世の方の話を直接聞くことで、今の生活が当たり前ではないことを実感し、これからの生活をよりよく創造していこうという実践意欲につながった。
- クラスごとに希望をとって施設を訪問したり、班で分担してスライドを作ったりすることで、主体的に学習する姿が見られた。
- 文化祭で生徒や保護者・地域の方に学習成果を発信するために、相手にわかりやすい内容になるように ICT を活用して工夫することができた。

- ◇街の規模の違い、発展度の違いを実感した。各国のパビリオンでそれぞれの文化に触れ、各国の課題がわかった。
- ◇海外との関り方を考えていく必要を感じた。人は集まったときが一番強くなることを学んだ。
- ◇計画を実行する能力だけでなく、計画通りにいかないときでも判断して解決する能力がついた。班の人と分担してスライドを作って、内容を充実させて発表することができた。

単元名

Unit 4  
What is important in a homestay?

【関連のあるSDGsの目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎日常的な話題について、英語で分かりやすく伝えるためにはどうすればよいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●「千年先も、いつくしむ」宮島を創るために、宮島へ来られた観光客に向けて、事実や自分自身の考えや気持ちを英語でどのように伝えたらよいだろうか。

【連携諸機関】

・宮島棧橋広場  
（廿日市市役所  
宮島支所環境産業  
グループ）

【単元の目標】

「千年先も、いつくしむ。宮島」を創るために、外国人観光客が宮島を満喫できるようなサポートをすることができる。

★学習活動のアピールポイント★



<研究授業①>



<研究授業②>



<校外学習①>



<校外学習②>

- ・宮島を訪問する外国人観光客に向けて、気持ちよくお迎えをして、観光客の方々が宮島を満喫できるようなサポートをすることを目標にし、外国語（英語）を使って滞在時のルールやマナーを説明したりおすすめのものを紹介したりした（研究授業）。
- ・授業で行った活動を6月17日（火）に第2回目の校外学習として、宮島棧橋広場にて外国人観光客と実際にやりとりをした。
- ・タブレットを活用して、言語活動をする上での場面設定や活動の流れなどを効果的に提示したり、生徒自身の考えや思いを気軽に相手と共有したりしたことで興味・関心を高めた。また、教師の見本文例を電子黒板に掲示する等し、相手意識をもった声のかけ方を視覚的に理解させた。

| 児童生徒の成長した姿 (○)   | 児童生徒による振り返り (◇)   |
|--|---|
| <p>○生徒自身の実生活での場面や状況に合わせた適切な文を話す帯活動を計画的に仕組んだことにより、英語が苦手な生徒であっても、自分自身の考えや気持ちを簡単に伝えることができた。</p> <p>○様々なシチュエーションでのやりとりを生徒に与えることによって、生徒自身がそれぞれのシチュエーションをイメージしながら、間違いは多少あるものの、自分の言葉で伝えられるようになった。</p> <p>○ALT だけのやりとりだけではなく、実際の外国人観光客とリアルにやりとりをさせることによって、相手意識をもったやりとりの難しさや大切さを学ぶことができた。</p> | <p>◇前回の校外学習であまり声を掛ける勇気が出なかったのが、あまりスラスラと喋ることができませんでしたでしたが、今回は二回目というのもあって、一回ではあったけれど、友達がいい間違えたところを言い直してあげることができ、自分でも質問をいくつかすることができました。</p> <p>◇その国の発音と自分たちが習った発音の仕方が違って伝わらなかった部分もありましたが、自分のおすすめの食べ物、宮島のルールを伝えることができました。課題は、もっと自分の質問に対しての回答を想像して反応してあげられるようにしたいです。</p> <p>◇今日はロンドンとスペインの人と交流することができました。ロンドンの人はお好み焼きを昨日食べていて、おすすめしようと思ってどうしようと思っていただけで、穴子丼の説明をしてうなぎに近いとも言えることができました。次はおすすめのお店も伝えられたらと思いました。</p> <p>◇今回は二回目だったので、初めに自主的に話しかけることができました。コミュニケーションは滞りなかったです。二回目は、少し時間が空いたので自分の中で振り返って履修すべき内容はコンプリートできました。しかし、「rules」の発音が悪かったらしく、一度聞き返された上、知らない国の名前が出てきたり、ネイティブの特殊な発音も聞こえたりしたので、そういった経験を忘れないうちに失敗したことの原因（今回は緊張したことと練習不足）を見つけ、復習や動画の見直しをしておきたいです。</p> |